



平成19年3月5日
編集・発行者
備前市手をつなぐ育成会
事務局・三石小学校

人は、人とつながり 生きていく。

備前市手をつなぐ育成会会長 道廣和男



平素より手をつなぐ育成会の活動にご理解、ご協力を頂き有難うございます。新備前市になり、二年目になりましたが、さらに活動が活発に出ていることは、大変有難いことです。

本年度の活動におきまして

日中一時預かり

日生町手をつなぐ親の会 南 恭子

平素より「手をつなぐ親の会」へのご支援、ご協力ありがとうございます。

が助け合っています。音楽・料理・車で外出といういろいろ



子供たちと、楽しく頑張っていますので、宜しく願ひ致します。皆さん遊びに来て下さい。

特別支援教育について

備前市教育委員会学校教育課 磯本宏幸

平成十九年度は、学校教育にとって大きな変化の年となりそうです。それは、これまで盲学校、聾学校、養護学校と呼ばれていたものを「特別支援学校」とし、特殊学級を「特別支援学級」と呼ぶことになったことと大きく関係しています。

異論はあるかもしれませんが、これまでは、障害のある子どもの教育と通常の子どもとの教育には線引きがなされ、それぞれが違うものとして進められがちでした。しかし、近年の障害に対する研究の深まりや理解の進展により、障

害そのものがこれまでとは違う概念でとらえられるようになってきました。例えば、落ち着いて話を聞けず立ち歩いたりしまう子やつい近くの子をたたいたり蹴ったりする子も発達障害によるものかもしれないととらえ、より適切な支援を行っていく必要があると考えられ始めたのです。そのような視点で子どもたちを捉えると、通常の学級の中で辛抱が足りない、努力が足りない、しつけが身につけていないと考えられ、自分ではどうにもならず苦しんでいた子に対して、これまでとは違った

地域の中のはまっ子作業所

日生東小学校PTA 岩崎睦子・森本淳子

平成十八年二月一日(金)に初めて「はまっ子作業所」を訪問させていただきました。中に入らせていただき、作業をしている人たちにお会いしましたが、思った以上にみなさんがとても明るい表情で

物の売れ行きがよいという地理的なメリットもあると言ってお話でしたが、市場の方々のふれあいもあり、今回の企画のように地域の方々と

なさんがとても明るい表情でした。ここが心の安らぎの場・憩いの場になっているのだなと実感しました。また、「はまっ子作業所」での活動としては、自分たちが畑で収穫したサツマイモを焼いて焼き芋にしたり、白菜

「はまっ子作業所」の方々が地域の中にしっかり根付いて生きておられることも強く感じました。これも、積極的に交流をされる作業所の方々の努力だと思います。私たちも日生地区の住民としてすすんでみなさんと交流

はまっ子

日生南小

十二月一日に、はまっ子作業所を訪問させていただきました。

「働きたい、仲間と場がほしい、ひとりぼなくしたい、自分の持を發揮したい」というの願ひを実現するため業の場所を確保し、共業することを通して生ズムを作り、地域の人の交流を積極的に図る目的として開設されたことを聞きました。リサイクル回収を別していること、アルダンボール箱だけでなく古着も回収している

業報告

1 回 代 議 員 会
助 会 員 募 集
回 代 議 員 会
だ せ き 作 業 所